

授業科目(ナンバリング)	教育方法論 (QA123)		担当教員 担当形態		浦郷 淳 単独					
教員免許状取得 のための選択の別	必修		単位数	2単位	開講 年次	1年	展開 方法	講義	開設 時期	後期
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目									
各科目に含める ことが必要な事項	教育の方法及び技術(中高)、教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)(栄養)									
授業のねらい									アクティブ ラーニング の類型	
○未来社会に生きる児童・生徒に求められる資質・能力を理解し、それらを育成する方法を理解する。 ○教育の目的に適した支援方法や指導技術を理解し、身に付ける。 ○情報機器活用能力育成の必要性を理解し、その育成に適切な教材を作成し、活用することができる基礎的な能力を獲得する。									①④⑥	
ホスピタリティを 構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・ 方法			評価 比率	
専門力	○教育方法の基礎的理論とその実践方法を理解する。 ○主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法を理解している。 ○児童・生徒の理解に基づいた学習評価の考え方を理解している。					定期試験			40%	
情報収集、 分析力	○情報機器を活用して適切な情報を入手するとともに活用できる。 ○情報機器を目的に応じて利用した教材の制作と活用ができる。 ○児童・生徒の情報活用能力を育成する教育法を身に付けている。					予習課題への取 り組み			30%	
コミュニケーション 力	○話法や板書など授業や人間関係を構築する技術を獲得している。 ○深い学びを成立させるためのグループ学習などで自分の意見が言 え、友達の意見を素直に聞くことができる。					授業への参加状 況とグループワ ークでの活動			10%	
協働・課題解決力	○学習のテーマに沿った学習指導案を単独で、若しくは、グループで 協同して作成する事ができる。 ○協働して課題解決を図る能力や態度の育成方法を理解し、児童・生 徒に指導する事ができる。					授業への参加状 況とグループワ ークでの活動			10%	
多様性理解力	○児童・生徒の多様性を理解し、彼らを認め、個々に適した方法で学 習支援を行うことができる。 ○授業に影響を及ぼす教室や教材等について理解し、適切に用いる ことができる。 ○多様性理解力の大切さを理解し、その育成方法を身に付けている。					授業への参加状 況とグループワ ークでの活動			10%	
出 席						受験要件				
合 計						100%				
評価基準及び評価手段・方法の補足説明										
本授業は、教員としての授業実践能力を高めることを目的としている。従って、児童・生徒が主体的に取り組む学習の編成能力はもちろんのこと、未来社会が求める能力育成の授業開発力も獲得する必要がある。従って、教育方法に関する基礎的な理論の獲得は不可欠であり、定期試験で評価する。一方、授業の実践能力に関しては、予習課題や授業への取り組みさらには模擬授業での行動を評価することになる。予習課題に関しては毎回コメントをつけて返却する。										
授 業 の 概 要										
主体的で対話的な授業を実践するためには、教員自身がそれを実践する能力を身に付けていなければならない。従って、本授業は、予習課題を行ってきたことを前提に進められることになる。受講生は、4名程度の班に分けられ、その中でテーマに沿った討議を予習課題に基づいて行い、班としての意見を纏め、発表することになる。次に、全員で課題の解決を考え、クラス全体で共有して、授業は終了する。このパターンを繰り返しながら、目標の達成を図る。 また、学期の終末部には、模擬授業を行う。これは、それまでに修得した知識や技能を使って行うものでなければならない。この模擬授業を通して、各受講者は授業に必要な教員の資質を再確認し、自己を点検することになる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。										
教 科 書 ・ 参 考 書										
教科書： 文部科学省 (2017, 2018) : 「学習指導要領 (中学校編、高等学校編)」 参考書： 樋口直宏 (2020) : 「教育の方法と技術」、ミネルヴァ書房 指定図書： 樋口直宏、林尚示、牛尾直行 (2020) 「実践に活かす 教育課程論・教育の方法と技術論」、学事出版										
授業外における学修及び学生に期待すること										
授業の概要でも述べたように、主体的・対話的な深い学びをもたらす授業を行うためには、教員自らそれらの資質・能力を身に付けていなければならない。この意味を十分に理解して授業に臨み、予習に取り組んで欲しい。 また、模擬授業では本時での学びを振り返り、全力で指導案の作成、授業の実施にあたって欲しい。										

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	本授業のねらい	本授業のねらいを明確にする。また、受講者の主体的な予習への取り組みを前提として進めることを理解する。さらに、授業の内容と評価について理解する。	今までに教わった中で、印象に残った先生の特徴を600字でまとめる。
2	素晴らしい教員の条件	予習レポートをもとに、各受講者が素晴らしかったと思う教員を紹介し、共通項を分析して、素晴らしい教員の必要条件と十分条件を考える。	教育基本法と学校教育法等を調べ、その関係性を把握して600字にまとめる。
3	学校教育に関する法律	予習をもとに、教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則等の内容を把握し、これらの関連性を議論し、授業の背景にある学校教育と法律の関係を理解する。	敗戦と前後の教育や、学習指導要領刊行の理由を調べ、600字にまとめる。
4	戦前と戦後の学校教育	戦前と戦後の学校教育の特徴を、予習をもとに論議するとともに、学習指導要領刊行のいきさつやその目的を理解する。	学習指導要領の改訂の流れを調べ、600字のレポートにまとめる。
5	学習指導要領の改訂と授業	戦後の学校教育を特徴づけた学習指導要領の改訂の歴史を振り返って理解するとともに、戦後の学校教育における授業の変遷を理解する。	教育方法論に関する考え方の歴史を調べ、600字にまとめる。
6	教育方法論の歴史と先駆者の考え方	予習レポートから、教育方法論の歴史と先駆者の主張した内容を考えてとともにそれらが現在にどう生かされているかを理解し、現代の教育について考える。	授業を行うにあたって用いられている学習論を調べ、600字のレポートにまとめる。
7	学習論の理解	予習をもとに、現在用いられている学習論を紹介するとともにそれぞれの長所短所について理解する。また、学習の成立の意味を理解する。	現在用いられている学習形態について調べ、600字のレポートにまとめる。
8	授業で用いられる学習形態	予習をもとに、学校現場で活用されている学習形態を取り上げて議論し、それぞれの長所や短所について理解するとともに教科学習での適用を考える。	学校でのIT機器活用の授業を調べ、その効果等について600字にまとめる。
9	ICT時代の教育	予習を基に、ICT機器の活用が、教育方法を大きく変えている実態を紹介し合い、その効用について考えるとともに、教員のICT操作能力を考える。	授業で用いられる板書やノートの役割、及び指導案について調べ、纏める。
10	板書及びノートの役割、そして、指導案作成	予習をもとに、板書やノートの役割について議論し、それらの機能について理解する。また、学習指導案の作成方法を理解する。	教育評価について調べ、その目的を600字のレポートにまとめる。
11	教育評価の種類とねらい	予習をもとに、教育評価の種類とその狙いを討議し、教育実践の中で行う評価について理解する。さらに、教員と学習者の距離を短くする評価についても理解する。	多様な児童・生徒をどのように理解するかを考え、具体策について纏める。
12	多様な児童・生徒への対応	予習を基に、多様な児童・生徒にどのように対処するかを考える。また、授業でそれをどのように生かすかについても考える。	社会科関連の免許状を取得する学生は、模擬授業のための学習指導案を作成する。
13	模擬授業（社会科関連）	中学校社会科、及び、高校地理・歴史の免許状を取得する学生が、作成した学習指導案を基に、模擬授業を行う。そして、その模擬授業をもとに、全員で改善案を考える。	保健体育科の免許状を取得する学生は、模擬授業のための学習指導案を作成する。
14	模擬授業（保健体育科）	中学校及び高等学校の保健体育科の免許状を取得する学生が、作成した学習指導案を基に、模擬授業を行う。そして、その模擬授業をもとに、全員で善案を考える。	英語科或いは福祉、栄養教諭の免許状を取得する学生は、模擬授業のための学習指導案を作成する。
15	模擬授業（英語科、福祉、栄養教諭）	英語科、福祉、栄養教諭の免許状を取得する学生が、作成した学習指導案を基に、模擬授業を行う。そして、その模擬授業を基に、全員で改善案を考える。	本授業の振り返り
16	定期試験	筆記試験	試験の準備学修